特集

つなぐ

皆さんの急病やけがの際に通報から現場に駆け付け、迅速に搬送を行う救急車。
普段の生活で見かけることや、サイレンを聞くことはよくあると思いますが、
実際に利用したことがある方は少ないのでは。
救急車の年間出動件数は、昨年、過去最多の６４７６件となりました。
件数が多くなると「救急車が来ない」「搬送先がない」といったケースも起こりえます。
大切な人の命を救うために、今、一人一人の適正な救急車の利用が求められています。

※撮影時のみマスクを外しています

「もしも」は突然

あなたは119番通報をしたことがありますか。
家にいるとき、働いているとき、さまざまなシーンで突然起こるかもしれません。
「もしも」のときに救急車が来れることで命がつながります。

黒河真由美さん
主任児童委員。元小学校教諭

「あれほど冷静にいられんかったことはなかった」。一昨年まで小学校教諭として働いていた黒河真由美さん。過去に救急車を呼んだシーンが今でも忘れられないと話します。「畑に行ったときに、農作業車がひっくり返って、頭から血を流しているおじいさんが倒れていて。すぐに119番しようとしたけど、ドキドキして番号が打てなかった」。周りには誰もいない状況。焦りが消えなかったと振り返ります。「やっと通報できたけど、とにかく『早く来て』という思いが先行。冷静でいられなかった。でも今振り返ると、消防の方が冷静に対応してくれたので、落ち着いて、場所も状況も明確に伝えることができたと思います。

今でもあの時のやり取りが耳に残っています。感謝ですね」。その後、まもなく救急車が到着し、救急搬送されました。

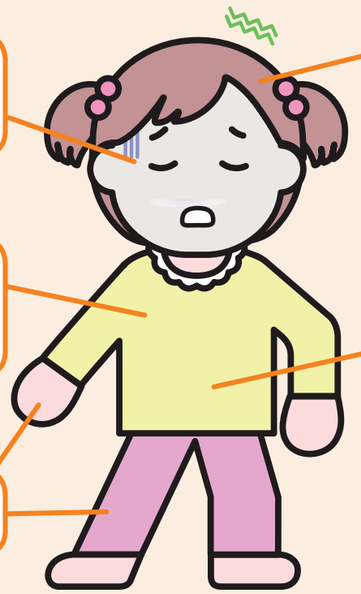
「今でも現場をみると緊張するし、思い出します。それと同時に救急医療の大切さを実感しています。とにかく現場では『落ち着いて119』『その後は消防職員の指示に従う』、そして周りに助けを求め、一人でも多くの人で対応することが大切です」。その後も通報経験がある黒河さんは、「タクシー代わりに使っている人がいると聞くけれども、救急車は緊急時のもの。ほんとに困っている人、命に関わっている人がいるってことを知ってほしい」と緊急時に備えた救急車の適正利用を願います。

保存版 こんなときは119番

こんな症状のときは迷わず119番通報してください。

※急病が多い子どもと高齢者を抜粋。
詳細は厚生労働省のホームページから▶

こども（15歳以下）



顔
- くちびるの色が紫色
- 顔色が明らかに悪い

頭
- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない、けいれんがある

胸
- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しそう
- 呼吸が弱い

おなか
- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがる
- 嘔吐が止まらない
- 便に血がまじった

手・足
- 手足が硬直している

高齢者

顔
- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

頭
- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立っていられない

胸や背中
- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

おなか
- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

手・足
- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

出典：総務省消防庁「救急車利用リーフレット」

キリトリ線

このページは裏面とセットで切り離して利用できます

冷蔵庫など普段の生活でよく使う場所に貼って「もしも」のときに備えましょう

命をつなぐ「救急隊」

軽症など、緊急でない場合に救急車を利用すると
一刻を争う傷病者への対応が遅れます。
まずあなたの正しい判断と行動が、救急車の適正利用の「鍵」となります。

東消防署 二上健太さん・関口剛史さん

通報しても救急車がなかなか来ないケースも

「私たちは、目の前の傷病者を、症状を悪化させず、一刻も早く病院に搬送することが第一の目的です」。3人一組で現場へ向かう救急隊。令和4年中の救急対応は、出動件数・搬送人員数ともに過去最多となりました。「高齢化、そしてコロナの影響で救急件数が増加しています」。搬送されたうち、約4割が入院を必要としない軽症患者です。「軽症者の方が多いことが問題。現場に到着後、家族などと相談し搬送しないケースもありますが、通報があると、全て出動します」。救急件数の増加や不適切な救急車の利用があると、必要な救急車の台数が不足し、搬送に要する時間が増えます。「時間がたてばたつほど救命率も下がります。市内での搬送先がない場合は、搬送に時間を要する市外の病院へ行くこともあります。そのため、次の救急にも影響し、悪循環になります」。

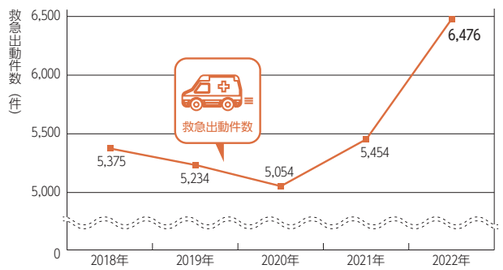
緊急のときの119

件数が増え続けると、救急車を緊急時に呼べないケースが今後出てくるかもしれません。通報する判断はもちろん難しいですが、相談窓口や休日夜間急患センターなど、ほかの手段を知っておくことが大切です。「通報した際には、まずは落ち着いてください。冷静になるのは難しいかもしれませんが、通信指令員がうまく誘導しますので、聞かれたことを答えてください」。

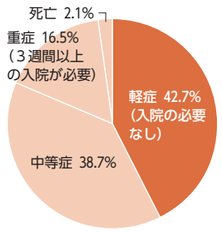
消防本部では市民が適正に救急車を利用できるよう、医療機関などと連携をして、さまざまな取り組みを進めています。「救急車は緊急時のものです。症状が出たときは早めの相談や、受診を心掛けてください。もちろん、緊急の場合は119番通報してください。私たちが皆さんの命を守ります」。

西条市の救急統計

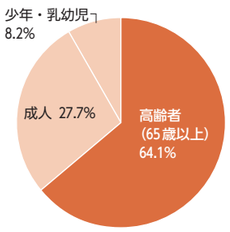
出動件数が過去最多の6,476件



約42%が軽症患者



約64%が高齢者



救急車で搬送された患者の割合（2022年）

あなたが助けるためにワンアップ！

もしものときに備えて、学んでみませんか。
その一歩が大切な人を救う『鍵』となります。

心肺蘇生法を動画で学ぼう

消防職員と消防団員がガイドラインに基づき心肺蘇生法を分かりやすく解説します。

詳細は▼

ガイドブックで学ぼう

昨年、乳幼児施設向けのガイドブックを作成。育児をされている方も活用できるので、ぜひご活用ください。

詳細は▼

講座に参加しよう

毎月第３日曜日に開催している市民救命士養成講習会。実技中心の講習で受講は無料です。５月の開催は以下のとおり。

▶日時　５月21日㈰　９時～12時
▶場所　西消防署
▶申込先
○東消防署　TEL0897－55－0119
○西消防署　TEL0898－68－0119

詳細は▼

そのほか……

インスタグラムやフェイスブックでも消防職員が防災や救急に関する情報を分かりやすくお伝えしています。

詳細は▼

医療現場の声

西条市救急業務懇話会会長
済生会西条病院副院長
石井　博さん

あなたを救う最後の砦
～さらなる連携を目指して～

当院は二次救急病院（※）として、年間1,200台ほど救急車を受け入れています。そのうち半分が夜間などの時間外。昼間はたくさんスタッフがいますが、時間外は医師１人と看護師が１～２人。また、医師も高齢化が進み、救急対応できる医師数が減少しているため、万全な受け入れ態勢を整えることができず、依頼があっても、２割程度、救急車の受け入れを断っているのが現状です。

軽い症状で救急外来を利用する人、救急車をタクシー代わりに使う人がいると、本当に緊急時の際に受け入れできないケースもでてきます。受診する際は、まずは昼間などの時間内、そして夜間や休日などは休日夜間急患センターを利用し、それでも難しく、緊急を要する場合は救急車を呼んでください。救急車を呼ぶか迷ったときには、相談窓口（右ページ下段）をぜひご利用ください。

※主に入院や手術を必要とする救急医療を担う医療機関。市内には６カ所

キリトリ線

冷蔵庫など普段の生活でよく使う場所に貼って「もしも」のときに備えましょう
このページは裏面とセットで切り離して利用できます

保存版

病院？救急車？迷ったら
～もしものときのガイド～

どうするか迷うとき

・休日におなかが痛くなった。
　どの病院に行けば
　いいか分からない
・夜間に発熱。
　病院に行くべき？
　救急車を呼ぶべき？

緊急性が高いとき

・呼んでも返事がない（意識がない）
・けいれんが続いている
・大量に出血している
・呼吸が苦しい、顔が真っ青
　など、緊急性が高いと判断したら
　【裏面も参照】

病院に迷ったとき【夜間・休日】

●休日夜間急患センター
西条市野々市40－１
TEL0897－52－2001
診療時間
○月～土曜日　19時～22時
（内科、土曜日のみ外科あり）
○日曜日・祝日　９時～18時
（内科、外科）

●在宅当番医
診療時間　月～金曜日
19時～22時（外科）
※テレホンサービス（TEL0897－58－2200）などで確認できます

119番 通報を！

救急車を呼ぶときは、
指令員の案内に従ってください。

【救急車が来るまでに準備するもの】
・保険証や診察券　・お金　・靴
・普段飲んでいる薬（おくすり手帳）
※乳幼児の場合は母子健康手帳や
　おむつなども用意

大人専用の相談窓口（#7119）は
2023年夏ごろに開設予定

症状の判断に迷ったときは

大人・子ども
●全国版救急受診アプリ「Q助」
該当する症状を画面上で選択していくと緊急度や対処法が表示されます。

詳細は▼

子ども
●電話相談　#8000
医師・看護師などの専門家がアドバイス。
相談時間　19時～翌朝８時
携帯・プッシュ回線　#8000
全ての電話　TEL089－913－2777